

【取り組み事例 1】

小杉町二丁目町内会の自転車マナーアップ運動の取り組み

取り組み内容（1）

- ・「自転車マナーアップ運動」のチラシ回覧・配布
- ・町内主要道路にのぼり旗を設置
- ・子ども会によるマナーアップキャンペーンの実施（写真1）
- ・町内会児童に啓発グッズを配布（写真2）



写真1 子ども会保護者との自転車利用マナー勉強会の様子



写真2 「中原区自転車と共生するまちづくり委員会」の協力で作成したバッジ

取り組み内容（2）

- ・自転車利用者の交通ルール遵守とマナー向上を呼びかける大型ポスターの設置

< 掲出ポスター >

掲出時期：平成20年12月

掲出場所：川崎市中原区小杉町二丁目地内（新日本石油（株）小杉アパート敷地外周フェンス）

掲出数：8基（プラスチック製、横1200mm×縦900mm）

掲出内容：自転車利用時のマナーやルールに関するイラストと標語など



掲出ポスター例



民間事業者の協力：本ポスターは小杉町二丁目町内会の活動に賛同した新日石不動産株式会社及び三井不動産レジデンシャル株式会社の両社の協力により製作・設置しています。

【取り組み事例2】

中原区PTA協議会会議における芳賀委員の講演

講演の経緯 中原区区民会議課題調査部会で部会委員として参加していた大下委員（中原区PTA協議会）が放置自転車をはじめとする自転車マナーについて、芳賀委員（自転車と共生するまちづくり委員会）に課題の現状について中原区PTA協議会で説明を依頼したことにより開催されました。この講演をきっかけに今後も各学校からの依頼や要望があれば応じる予定です。

日 時 平成20年12月12日（金） 午前10時00分～午前10時45分

場 所 中原市民館3階会議室

出席者 中原区PTA協議会（区内小中学校代表者） 中原中学校校長など30名程度

芳賀委員の主な講演内容

- （1）中原区区民会議の概要
- （2）区内の放置自転車の問題について
- （3）自転車と共生するまちづくり委員会の活動について



【取り組み事例3】

新丸子駅周辺放置自転車対策活動（丸子地区商店街連合会）

実施日 平成20年12月2日、10日、18日、22日いずれもPM3:30～4:00

場所 新丸子駅周辺

参加者 丸子地区商店街連合会 新丸子駅周辺の商店街関係者6名

活動内容

- (1) 新丸子駅周辺の活動区域に啓発用のぼり旗5本（地域振興課貸与物品）を設置
- (2) 対象区域に放置された自転車に警告チラシをホッチキスで貼付する。

本活動は自転車放置の抑止効果を高めるために、試行的に市の放置自転車撤去活動と連携して実施しています。



活動の様子内容

川連会長ほか7名程度で分散して、放置自転車に警告チラシを貼付する作業を行う。

活動（作業）時間は約30分程度

貼付枚数（自転車台数）は200～250台程度



活動日当日と活動後（翌日）の様子（いずれも午後4時頃撮影）



12月11日（活動日当日）の状況



12月12日（活動日翌日）の状況



12月11日（活動日当日）の状況



12月12日（活動日翌日）の状況



12月11日（活動日当日）の状況



12月12日（活動日翌日）の状況



12月11日（活動日当日）の状況



12月12日（活動日翌日）の状況

放置自転車対策を独自に開始

地域の協力が解決のカギ

丸子地区商店街連合会（川連昌久会長）では、深刻化する新丸子駅周辺の放置自転車問題に対し、商店街独自の方法で解決の糸口を見つけようと、昨年12月から警告等の活動を始めた。商店街で同活動に取り組むのは区内で初めてのこと。



区内では「自転車と共生するまちづくり委員会」が8年前から小杉エリアで放置自転車への張り紙、地元住民への呼びかけ等を警察署や区役所、ボランティアの協力で進めている。

しかし丸子地区では、駅東口、西口歩道、西口駅前広場、医大モール入口等に放置自転車が多数あり、すでに高齢者や車椅子利用者の通行が困難になっている。丸子地区の他会長からも問題視する声が挙げられていた。また、昨年10月に区民会議の議題として同問題が取り上げられ、その深刻さを痛感したことから、

タウンニュース 中原区版

H21.1.16号

川連会長は「丸子地区も具体的な活動をおこなえばならない」と感じたという。同連合会では活動方法や時間帯に工夫をしている。まず自転車に張る張り紙は

目立たない小さなものではなく、B5サイズで一目で放置禁止区域であることが分かるものを作成した。

【中面へ続く】

トップつづき

放置自転車対策を独自に開始

そして持ち主に張り紙を見てもらえるよう、撤去は当日ではなく翌日に行っている。また、放置自転車は「朝

方より午後から夜間にかけて放置自転車が多数発生する傾向があります」と区役所地域振興課。活動は放置台数の多い午後に行っている。「活動

の次の日は自転車の数が減っているのが分かります。しかし1週間も経てばまた元通りになってしまうのというのが現段階の現状。根気強く活動を続けてい

駅前に溢れる放置自転車



くしかないですね」と川連会長は話す。今後は張り紙の内容等を変えたり、地元小学生による放置自転車禁止を訴えるポスターを禁止エリアに貼るなどの対策を考えている。

「放置自転車問題は地元住民や商店街、鉄道会社など皆の協力があつて解決していくもの」と話すのは市建設局自転車対策室。川連会長も「地元商店街自らが活動をするのはこれが区内で初めて。地元の方にまずこの活動を知ってもらい、他の商店街でもこのような動きが出て中原全体で放置台数が減少すればうれしい」と話している。

宮本委員提供資料

2008. 11. 19

川崎工場マナーアップキャンペーン2008

川崎工場勤務者の皆さん。
毎年恒例となりました、『マナーアップキャンペーン』。
2008年度は、11月12日、19日、26日の3回に渡りまして、キャン
ペーンを実施いたします！
皆さんの日常を振り返る良いきっかけとしてみませんか？



VOL. 2『交通ルール』

◆横断歩道をわたりましょう。

朝の出勤時間帯、特に始業時間間隙になると、横断歩道ではない場所を横断する方が目に付きます。正門前の交差点を斜めに横断する方、駅前の道路に停まっているバスや車の間から無理矢理道路を横断する方。...

例えば車の通りが少なかったとしても、きちんと横断歩道を渡りましょう。

◆赤信号で渡らない。

信号を無視して強引に渡る方が散見されます。赤信号での横断は大変危険です。また、点滅以降の横断開始も慎んでください。

富士通の周りには小中学校等もあり、子ども達もそんな姿を見ているかもしれません。もしも自分の子どもが同じことをしていたら「危ないからダメ！」と叱りますよね？

良識ある社会人として、子ども達の良いお手本でいたいものです。

◆自転車のマナー

やはりこちらも始業前。

正門前の横断歩道を、信号が青になったとたん、加速しながら正門前まで自転車を乗り入れ、門の手前で自転車を飛び降り、そのまま走りながら正門を通過する方、川崎工場内を猛スピードで移動する方がいらっしゃいます。

スピードの出し過ぎは大きな事故に繋がります。

出勤時間帯の各門付近、また、川崎工場内は歩行者も自転車利用者もたくさんの方が往来しています。これではいつ接触事故がおきてもおかしくありません。

先日、実際に接触事故が発生し、歩行者の方が怪我を負っています。

自らの安全確保はもちろんですが、誰かを負傷させてからでは遅過ぎます。常日ごろから安全運転を心掛けてください。

自転車も「車両」であることを忘れずに。...

◆ゆとりをもって出勤を。

横断歩道以外での横断、信号無視。...

これらは朝の始業間近に特に多く見受けられます。

せめてあと10分、いや、5分だけでも早く家を出発してみてもいかがでしょうか？

「早起きは三文の得」です。これを機にゆとりのある朝を過ごしてみましょ。気分よく、一日のスタートが切れるはず！



川崎)総務部